

## 山寺通信 3月

大きな変化の一つに世界の情報が簡単に手に入るようになってきました。パソコンから始まったインターネットは、知識が必要な物でしたが、今はスマホやタブレットさらにもっと簡単なスマホが発売されているのでだれでも情報を手に入れることができます。年配の人達でも機械に向かって命令すればなんでもできる時代になってきています。当社がホームページを作ったのは、20年以上前でした。中国の磁器で有名な景德鎮のメーカーを訪ねた時、当社にはホームページがあると話して開くまで30分ぐらいかかりました。それからの進歩はとて早く世界中にひろがり、交流や買い物が色々の端末ができ専門的知識が無くても使えるようになってきました。さらに動画の普及は、臨場感を演出して流通を変えています。ただ現在は、コロナ禍と言う特殊事情の中にいますのでもう少し複雑になります。目先の変化は、密を避けるための行動、通販や宅配の買い物方法、買い物製品が絞られている。巣ごもりにより時間を使う趣味性の開拓、溜まった個人の貯蓄又売上げの停滞による企業活動の赤字、ワクチン接種による将来への希望と色々な立場により人それぞれです。世界では、日本茶による免疫力のアップが注目されています。清国の崩壊により緑茶を確保できなくなったアメリカが、鯨油を獲る捕鯨船のために補給地としてペリーが日本に開国を迫ったとも言われています。1年以上航海する船員のために壊血病予防のビタミンCを確保する緑茶が必要だったことで日本との通商も必要でした。

次回4月号の「茶」は、私も親しく取引させていただいた「茶聖」と呼ばれた大谷嘉兵衛について人物と業績について書きます。鎌倉のご家族から聞いた話等を交えて、明治を茶と共に駆け抜け、さらにそれ以上の仕事をした国際人の話です。その一部と日本のすごさ史的史実と企業名、実行したことも一部ご紹介いたします。明治元年9月から12月までに420トン茶を買い付けた事、お茶の品質保持、外商を通していたお茶の輸出を日本人の手で初めて輸出した、アメリカの大統領と直談判して関税を下げさせた、世界各地に営業所を作り日本茶を売り込んだ等々の紹介するつもりです。若い時から正義感が強くエネルギッシュに働きました。それと不良品による信用失意をとて気にしていました。関東大震災の時、鎌倉で回りの家が皆倒壊したのを見て、唯一倒壊しなかった大谷家の家を壊すぐらいの人でした。多くの土地の寄付学校などの建築にも寄付したそうです。「悪貨が良貨を駆逐する」発展途上の日本に一番大事なことだと家族に言っていたそうです。



静岡市に寄付した製茶工場跡地が公園になりこの胸像があります、他全国各地に大谷翁が寄付した土地に胸像があります。



上 真ん中方模倣品

宮廷生活図

最古の中国茶壺レプリカ

1616年頃 **時大彬** 作品

三代石仙 温故の末裔

最後の石仙の遺作

遺品のなかから出てきました。